



月刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.7.24 No. 3258

不当処分撤回！ 不正賠償！ 暴動粉砕！

反撃開始

7/21 千葉市市民会館 集会

機動隊の弾圧に怒りのシュプレヒコール



出勤停止三名を始め一四一名にもぼる不当処分の大暴挙を行ったJR当局に怒りの反撃が開始された。
七、二一処分粉砕総決起行動は、千葉市民会館に組合員・支援の労働者二四〇名が結集し、集会を圧倒的にかちとったあと、全参加者が怒りも新たに反撃の決意をうち固め、千葉支社に向かってデモにうつって出た。

酷暑の中、二四〇名が結集！

集会は滝口執行委員の司会ですすめられ、はじめに布施副委員長より「今日は反撃の第一歩だ。今日の集会・デモを毅然と闘いぬこう」と開会の言葉があり、続いて、県労連センター・広田事務局長、社会党を代表して市川福平県会議員、労組交流センター・佐藤芳夫氏、ス労自主労組の入江委員長、更には三里塚反対同盟北原事務局長、動労連帯高崎、動労水戸の仲間から連帯の挨拶を受けた。そのあと中野委員長より不当処分の弾劾と、今回の処分への不当性・反動性が一点の曇りもなく明確にされた。
特に、「スト損害賠償」攻撃に対しては、ストライキも辞さず闘う」とキッパリと宣言し、会場からも「ヨーン」「ソーダ」

怒りのデモ
貫徹！
集会後ただちにデモに出發する。JR千葉支社は自らの罪状におそれおのいてか、警察機動隊

の声援もとぶほど、当局への怒りの深さを感じた。次に家族会より佐藤事務局長と、国労の仲間より挨拶を受けたのち、田中書記長より決意みなぎる闘争方針が提起された。暑い夏を吹きとばし、動労千葉破壊を根底からうち破るまで断固闘う決意を全参加者がうち固めたのである。
集会の最後は被処分者の決意表明だ。
代表して、佐藤執行委員、館山支部・赤羽根副支部長、千葉転支部・椿副支部長、青年部から関書記長が壇上に立ち、それぞれ気迫のこもった決意をのべる。

現場・支部からの反撃を



240名の怒りのシュプレヒコール！
(千葉支社前)

を前面におし立て弾圧を目論むが、われわれの怒りはそんな事などものともしない。二四〇名隊列は抗議のシュプレヒコールを叩きつける。
道行く人々も、動労千葉の迫力と機動隊の異様な姿に足を止め、じっと見守っている。
中には、拍手をする人も！
支社前に到着、何とか！支社の中には機動隊・放水車まで配置されているではないか！
皆の怒りも最高潮に達し、何度も怒りのシュプレヒコールを叩きつけた。
闘いは開始された。
現場・支部段階から、反処分・組織破壊粉砕の闘いを巻き起こそう！